

## 第11回美術品梱包輸送技能取得士認定試験の実施について

博物館・美術館に展示される貴重な美術品・文化財等の取扱いや、その梱包輸送には、特定の知識・技能が必要だが、ベテラン作業員や古参の学芸員が退職し、後継者養成に困難が生じている。他方、国公立の博物館・美術館では、競争入札で、経験のない梱包・輸送会社が落札し、美術品等が毀損されるような事態が懸念される。そこで、後継者に技能継承のインセンティブを与え、より多くの梱包・輸送業者の技術水準の向上を図るとともに、技術が未熟な運送会社への落札を回避できる方策として設けられたのがこの認定試験である。

日本博物館協会では、平成24(2012)年2月から、この認定試験を実施しており、この度、11回目の認定試験を実施したので、報告する。

### 1級の認定試験

令和3(2021)年度の夏枯れ時期である8月は、東京は新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言下ではあったが、体温測定、手指消毒、机間を空ける等の感染防止措置を講じて、21日土曜日に実施した。

1級は、全ての分野の作品について、所有者・学芸員の指示の下、独立して取り扱うことができ、取扱いの難しい作品の梱包設計が行える水準を想定しており、梱包輸送の経験年数10年以上と、2級の保有を受験資格にしている。試験は筆記試験と口頭試問である。例年は黒田記念館で実施しているが、感染防止のため、広い空間の利用できる東京国立博物館の平成館で実施した。

受験希望のある会社に予め受験枠を振り分け、10名で試験を実施した。

午前中に行われた筆記試験では、京都府宇治市にある平等院所蔵の国宝木造雲中供養菩薩像52軀を東京国立博物館平成館特別展示室に輸送し、展示会後返却するに際し、その下見において、留意すべき点と、留意すべき理由を記述する問題が出題された。試験時間は90分、60%が合格の基準である。合格者は3人だった。

午後の口頭試問では、イタリアのフィレンツェ市にあるウフィッチ美術館所蔵のレオナルド・ダ・ビンチ作「受胎告知」というイタリアの国宝級の板絵を、現地から国立西洋美術館まで輸送し、返却するまで担当する際、下見の際に調べるべきポイントや、トラブル時の対応について、面接官からの質問に答えてもらった。アクリル壁を立て、マスク着用のまま、1人30分間で、梱包設計の詳細について問うとともに、技術集団を統括し、きちんと説明することができる人物であるかどうかを審査した。合格者は6人だった。

両方に合格して1級を取得したのは10人中1人と、昨年度の4人を大きく下回るようになった。

### 2級の認定試験

2級の認定試験は、令和4(2022)年2月12日土曜日と13日日曜日、オミクロン株の感染が拡大しつつあったが、感染防止措置を講じて、東京国立博物館の平成館と黒田記念館で実施した。この試験は、全ての分野の作品について、所有者・学芸員の指示の下、独立して取り扱うことができ、現場で作業員の監督ができる水準を想定しており、梱包輸送の経験年数5年以上で、3級を保有していることを受験資格にしている。筆記試験、実技試験、面接があり、実技試験は梱包の基礎である陶磁器と、特有の基礎知識を必要とする茶道具を課している。

陶磁器の実技試験では、例年は作業の補助のために助手を用意しているが、受験者と顔面が接近して感染の危険があるため、昨年度は2級の認定試験の実施を見送った。しかし、コロナ禍の終息時期は予想できず、実際には助手なしに作業せざるを得ないこともあることから、審査の観点を若干変更して、陶磁器の実技試験を、したがって2級試験を再開することとした。ただし、同時に受験する人数について

は、例年より減らして、ソーシャルディスタンスを保つことにした。

2級試験では、面接試験に合格して他の試験で落ちて、再受験する者については、面接試験を免除しているが、面接免除か否かを問わず、1日目、2日目ともそれぞれ21人の定員で募集した。応募総数は59人で、今回も人数の調整をお願いした。この場を借りて、ご理解ご協力に感謝申し上げます。2日目の1人が欠席になり、全体で41人が受験した。

2級の認定試験は、東京国立博物館平成館での実技試験から始まる。実技試験の際のチェックポイントは、受験者の研鑽に資するため、博物館協会のホームページで公表している。ただし、合否の判定は、このリストにある項目の得点や減点によるのではなく、審査員の目で見、「この受験者に作品を任せられるかどうか」を基準にしている。

茶道具の実技は、箱に収まっている茶碗を取り出し、コンディションをチェックして、内梱包して箱に戻す作業を求めた。不合格者は2人だったが、9人がコメント付きの合格だった上に、全受験者に対して、次のようなコメントが担当審査員から出されている。

「全体に御物袋の扱いに不慣れである。風呂敷の扱いも不慣れで、きれいに仕上げられていない。厳しく審査すれば、全員不合格だった。」

陶磁器の実技は、綿布団を作成して、内梱包を行うことを求めた。4人が不合格で、5人がコメント付きの合格だった。昨年度から設けた、作業が丁寧でありながら速やかで、出来上がりも美しい◎評価は、6名が獲得した。

午後に実施する筆記試験は、博物館協会の編集で出版している『博物館資料取扱いガイドブック』から出題する。博物館資料の取扱いや梱包・輸送、保存について多肢選択式で回答を求めると、該当する選択肢がなく、「なし」と答える「ゼロ回答」の問題も含まれる。回答時間は50分で、32問。65%の正解が合格の基準である。今回も、黒田記念館のセミナー室で実施したが、12名の不合格者が出た。

筆記試験の後に、同じ会場で講習を実施した。内容は、主として午前中に行った実技試験の振り返りを行った。

講習の後の面接試験は、黒田記念館と平成館で実施した。2級の面接は、コミュニケーション能力と指導能力の確認を主目的として実施している。今回は全員合格だった。

所要の試験全てに合格し、2級の認定試験に合格した者は、受験者41名中26名、合格率63.4%で、昨年の71%をかなり下回った。

### 3級の認定試験

3級の認定試験は、2級試験と同日、2級試験と併行して、東京国立博物館の平成館と黒田記念館で、感染防止措置を講じて実施した。

3級は、需要が多く比較的取扱いの容易な陶器、額装作品、掛物などを所有者・学芸員の指示の下、独立して取り扱うことができる水準を想定し、2年以上の梱包輸送の経験を要求している。筆記試験と複数の実技試験を受け、全ての試験に合格することが3級認定試験合格の条件となっている。

昨年度は、2級の項に書いた理由により、陶磁器の実技試験の実施を見送ったが、今回は助手を付けない形で再開した。額装の実技試験会場のレイアウトを変更することにより、今回は、両日とも、5人ずつ6つの班に分かれて実施することとした。

定員60人に対し、受験希望者数は75人で、今回も人数の調整をお願いした。この場を借りて、ご理解ご協力に感謝申し上げます。なお、3級では、筆記試験に合格して実技試験で不合格だった受験者が再受験する場合、筆記試験を免除しているが、今回の筆記試験免除者は15人で、本人の希望のほうの日に受験いただいた。欠席者は1人だった。

午前中に実施する筆記試験と講習は、今回も黒田記念館で実施した。筆記試験の第1問は、自習

用の「ガイドブック」の第1章「美術品の取扱いの基礎知識」の一部を示し、空欄に入る語を選択する問題。第2問は、「ガイドブック」の巻末資料編の掛物、卷子等の「部分名称」を、選択肢の中から記号で答えるとともに、読み仮名を記す問題を出題した。今回も70%の正答を筆記試験合格の基準にした。受験者44名中、不合格者は2名にとどまった。

筆記試験に次いで同じ会場で講習を行い、実技試験で実施する額装作品、陶磁器、掛物の模範的な梱包作業をビデオで示し、解説した。このビデオは、有志の委員がこの認定試験に合わせて作成したビデオであり、博物館協会のホームページで公開している。自学自習にご活用願いたい。

午後に実施する実技試験は、全て東京国立博物館の平成館で実施した。

額装作品については全受験者が10人ずつに別れて受験した。掛物と陶磁器は、予め振り分けられた班により、いずれかを受験し、各自2種目受験した。

額装の実技試験では、6号の額装絵画を、国内輸送用に段ボール箱を作成して梱包する。陶磁器では、与えられた綿布団を使用して内梱包を行う。掛物では、箱から出して壁に掛け、降ろし、内梱包することを求めた。

実技試験の可否の基準は2級と同じだが、額装については、作業効率も求められることから、制限時間（額装の場合40分）以内に作業が終了できない場合、一律に不合格としている。他の作品分野では、制限時間内に作業が終わらなかった場合、一律には不合格とせず、総合的に判断している。

実技試験の結果は、額装は59人中8人が不合格、14名がコメント付き合格で、◎が6人に与えられた。陶磁器は29人受験して不合格が5人、コメント付き合格が1人、◎が2人だった。掛物は30人受験して不合格が5人、コメント付き合格が5人、◎が4人だった。

全実技試験を通して、ほぼ全ての受験者が時間内に課題を終了できた。受験者の習熟度が向上してきたことを喜んでいる。

この結果、所要の試験に全て合格し、3級の認定試験に合格したのは、受験者59人中41人で、合格率は69.5%と、ほぼ例年並みだった。

## 今回の認定試験の反省

4月28日木曜日、連休開始直前に、令和3年度の認定試験の反省を行うための委員会を黒田記念会で開催した。

今回の反省点の一つは、受験者の会場間移動に関わる諸々のトラブルである。主催者側の手が足らず、感染防止のために待機場所を複数にしていることなどにより、オペレーションが複雑になっているが、次回は、移動時も「密」を避けること、廊下での待機者に時間が分かるようにすること、同時に移動する班のメンバー確認をする機会を設けることなどに配慮したい。

また、額装で上下逆に梱包したとして不合格となった受験者から、問い合わせがあり、審査員が仔細に観測していたことを示して、収めて頂いた例があった。こうした場合、その場で本人と確認することを、審査員に徹底することとした。

2級、3級の受験者数は今回も調整させて頂いたが、当初から参加している大手の会社で、受験を要する人の数が減少しつつある。新規参入の会社で同時に複数の合格者を出す例はほとんどなく、新規参入会社の数は限られていることから、次回は、感染防止策を講じる必要がない場合も、2級は1日21人、3級は1日30人で実施することになった。ご理解願いたい。

新規参入に関係して、受験資格を改めて審議し、「梱包輸送の経験年数」は、美術品の梱包輸送であるかどうかを問わないことを確認した。

令和4年度の1級試験は、8月6日土曜日に実施することとした。一級の筆記試験の合格率が年度により異なるが、採点方法は一貫していることを確認した。

昨年度まで、合格率は上昇しつつあったが、今回は、3級は昨年度並みで、2級は、筆記試験でかなりの数の不合格者が出るなど、合格率が下がる結果となった。

2級の筆記試験は、『ガイドブック』を熟読すれば、合格できる内容になっている。また、実技試験の不合格理由の大半は、習熟度に関わるものである。独学の用に供するため、実技試験のチェックポイントや、3級実技のビデオを、博物館協会のホームページで公開している。ご活用の上、練習を繰り返し、習熟頂くことを願っている。

なお、『ガイドブック』は、1級試験に資する内容を加えて、来年(2023)春までに改訂版を出版することになった。ご期待願いたい。

新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、この認定試験も様々な制約を受けているが、感染の状況により、時期や人数を変更することはあっても、毎年度、継続して実施して参りたいと考えている。